

まんのうけはつゆるぬきしきてん

満濃池初開抜式典

～農業農村整備事業をPR～

<四国土地改良調査管理事務所>

令和7年6月15日（日）、先人の偉業と池神様に感謝し、併せて配水の安全と五穀豊穡を祈願する「満濃池初開抜式典」が、満濃池土地改良区の主催により開催されました。

満濃池は、貯水量1,540万トン、満水面積138.5haの規模を誇る日本最大級のかんがい用ため池であり、2市3町（丸亀市、善通寺市、多度津町、琴平町、まんのう町）の田畑を潤し、「世界かんがい施設遺産」（事務局：農水省）に登録されているほか、ゆる抜きの水音は、「残したい日本の音風景100選」（環境省）にも選定されています。



樋門からの放水



ゆる抜きを見物する人たち

池のそばにある神野神社において、香川県知事ほか関係する市町の首長、満濃池修築に縁のある方々とともに、中国四国農政局からも局長、地方参事官（香川）、四国土地改良調査管理事務所長が神事に参列し、玉串奉納と配水の安全、五穀豊穡を祈願しました。

その後、取水塔で満濃池土地改良区理事長等によって水門が開かれると、樋門から勢いよく水が流れ出し、大勢の見学者が豪快な水しぶきを写真に収めたり、迫力ある水音に耳を傾けたりしていました。

満濃池土地改良区によると、今年は冬から春にかけて降水量が少なく、6月15日時点の満濃池の貯水率は82.5%（平年値87.0%）であり、満濃池やため池群の用水を大切に使うべく、最大で毎秒5トンの放水を1週間ほど続けた後、田や天候の状況を見つつ、水量を調整しながら、10月上旬ごろまで放流が行われます。

四国土地改良調査管理事務所では、香川県土地改良事業団体連合会と連携して、農業・農村のめぐみ（多面的機能）や水土里ネットの役割等について、パネル等を用いて農業農村整備事業の広報活動を行いました。



事業PRの様子



神事の様子

神野神社



満濃池取水塔